

第29回万国地質学会の会場雑記

野上裕生¹⁾・西村 進²⁾・大野照文²⁾

まえがき

第29回万国地質学会の開催にあたって、とりわけ苦勞の多かった御兩人、井上英二募金幹事長と本座栄一事務局長のおすすめにしたがい、京都会場をめぐるうら話と失敗談の一部を—あまりにも多くて書きつくせないので—紹介したい。いささか場所をわきまえない感じもするが、今後、日本のどこかで催される地質関係の国際会議に、多少なりとも参考になることを願ってのことである。

1990年8月、京都国際会館において国際数学会が開催された。その規模が2年後に予定される万国地質学会にはぼ等しく、参考にすべきこともあろうと考えられた。数学の組織委員は、計画の募金額を達成した余裕のせい、前途に不安をいだく私たちにきわめて同情的であり、会期中のすべての事業に特別客として参加するように配慮してくれた。初日の受付、開会式、歓迎宴会、講演、セミナー、招待宴会、開会式、送別宴会、さらに社交プログラム、観光プログラムと手分けして見学をこころみた。うるところは多かったが、自信をそう失することも少なくなかった。会議後、組織委員はすべての資料の閲覧をゆるされ、外にはだせないようなノウハウまで伝授してくださった。そのうえ、非常識の集団でもやれたことが、世知にたけた地質家にはできないはずはない、日本文化の紹介などにも盡力すれば、成功うたがいなしと激励されるしだいであった。

日本文化

京都やその周辺に長年にわたって居をかまえると、どんな野暮な者でも、日本の伝統文化に接する



写真1. ウェルカムレセプションでの琴連弾。



写真2. 煎茶の講習会をうける同伴参加者。

ことになる。遠来の地質家や同伴者に、どのようなものが理解しやすいか、何が楽しんでもらえるかと考えてみた。一方、そこに流れる哲学こそが重要であって、理解など問題ではないとの意見が外野席からきこえてきた。私たちは、伝統文化に楽しみをもとめ、生活にゆとりを添える意義は認めても、そこに哲学探求など大げさなことは考えたこともなかった。京都にいる外国人研究者や留学生とも相談したうえ、祭をかざる花として、能、狂言、雅楽、京

1) 京都大学霊長類研究所：〒484 愛知県犬山市官林

2) 京都大学理学部地質学鉱物学教室

キーワード：日本文化、狂言、雅楽、盆栽、パーティ、
シャトル・バス

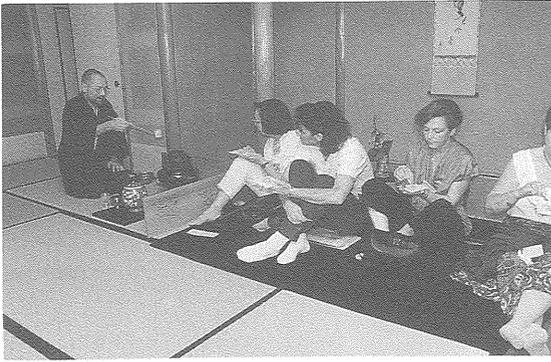


写真3. 茶道の講習。正座がにがての人のようです。



写真4. 茶道の講習。こちらは正座の人が多い。

舞、日本画、茶の湯、生花、折紙、盆栽、水石などを候補にえらんだ。

誰に依頼するのか。関西在住のその道の大家、しかも、万国地質学会の意義と経済状態に理解を示し、薄謝にあまじて出演してくれる大家と、はなはだ矛盾する問題の解決にせまられた。豪華一点を主義として、あたって砕けろと、狂言の茂山千五郎師に折衝をこころみた。師と一門は、多忙なスケジュールにもかかわらず、私たちの無謀な依頼に好意的な態度を示された。そのうえ、師の芸術院会員指名の祝賀会に私たちを招待してくださり、祝事につきものの三番奏を鑑賞する機会を与えられた。その後の交渉の結果、初回は古典的な題材を主眼とする正式な狂言を、次回は若手を中心とした、英語の解説つきの出しものに決定した。師と一門の好意にこたえ、舞台設置にはできるだけ配慮することを申しあわせた。

次いで、私たちが非常勤講師をしたことのある奈良大学の笠置侃一教授にお願いして、春日大社と奈

良大学の南都雅楽会に出演を依頼した。国際学会の開会式に舞えるのは光栄であり、薄謝でよいとの快諾がえられた。しかし、うら方をふくめ50人に及ぶ開会式の出演は、警固の関係から不可能となり、女性だけ10人の琴連弾にかえることになった。笠置教授は、閉会式はあくまで厳粛に、中日はすこし華やかにの方針をすすめられ、舞い手に若い女子大生だけをえらぶ大胆な演出をこころみた。また、国際色の豊かな場にふさわしい、ベルジャ、中国、韓国などの曲目を選定された。狂言と雅楽の簡単な説明を京都案内の小冊子につけておいたが、遠来の客とその同伴者にはほとんど読んでもらえず、演奏の途中で退場する者もあった。それでも、千五郎師は一部観客の熱い眼差しに感謝の意を表された。

京都府立植物園もまた、次年に国際園芸学会をひかえ、私たちの要望に親切にこたえてくれた。会館内に展示する盆栽の借用にくわえ、皇太子殿下の来園を記念して催された盆栽展の見学に、学会の参加者に限って特別の便宜がはかられた。三代の皇太子が觀賞された黒松、五洋松、いちょう、けやきの超一級品とそれをかざるきちょうな水石をめてた、幸運な地質家もあった。だが、植物園との約束もあって、口こみの宣伝にとまどったのは残念なことである。

日本画、茶の湯、生花、折紙、水石などの教室も予想以上の盛会であった。同伴者サロンの茶菓供応も好評すぎ、アルバイトの女子大生は、コーヒー、紅茶、クッキーなどの準備と接待におおわらわであった。しかし、ドイツのさる学会ゴロの、けっこうだったが、現代文化はないのかの苦言を書き忘れては、片手おちになるだろう。若い参加者が多かっただけに、せめて最終日くらい、ロックバンドのダンス・パーティーかカラオケでも用意すべきであったと後悔している。

パーティー

これこそ、数学の組織委員会から懇切な指示をうけ、国際会館の宴会担当者やコック長と打合せをすませ、万端の準備が整っていたのに、大きな大きな失敗をやらかしてしまった。定刻前にわれ先にと食事に手をつける者、自分の皿に大量にもり上げる者、ビールやウィスキーをラップのみにする者。開



写真5. 社交プログラムのハイライト. 茂山千五郎師による狂言.

始30分後に、餌なしのパニックをきたしてしまっ
た。数学会よりも質をさげ、はるかに量をましたの
に効果はなかった。アルコール類やソフト・ドリン
クも、十分な用意にあることを示すために、特別な
テーブルに必要以上の量を配置していたのに、ラッ
パのみとは。イスラム教徒やヒンズー教徒に特殊な
メニューを準備するなど、事前の細かい対策は、む
ざんな結果におわってしまった。

国際会館の宴会担当者いわく、これまでの学会の
最高とはいえないが、最低でもなかった。また、下
鴨署の警備担当者いわく、国際学会につきものの下
町の飲み屋やバーの支払いトラブルもなく、何人か
の傑物が署ホテルに一晚お泊まりいただく程度で、
じつにみごとでした。かなりの皮肉とお世辞はある
ものの、人命にかかわる事件のなかったことをよし
としよう。合言葉：パーティには金をかけろ、地質
家には餌をふやせ。

シャトル・バス

地下鉄の終着駅から会館へいたる、無料シャトル
・バスの運行もまた、みじめな失敗であった。京
都市交通局と事前の折衝をおこない、早朝と夕方に
集中配車を、中間は30分に1本程度でよいと判断
した。ところが、まじめで懐のさみしい地質家は、
予想以上に会場へおし寄せた。とくに大きな催し
がある日には、客が集中することになった。交通局の
担当者が会場につめ、配車の指示を適確におこな
ったが、スムーズに来客をさばくにいたらなかった。
むし暑い京都の夏に、歩いて来るのを期待する私た
ちがまぬけであった。配車係いわく、安くても有料
にすれば、歩く者もでる。

大阪空港から京都のホテルへいたるバスもまた、
失敗の一例であった。到着便の集中する時間帯にい
つでも出発できるよう、40人用のバス10台を配備
した。不安が残るのか、定期の空港リムジンを利用
せず、学会のロゴ付きバスに殺到した。チャーター
便の団体は、バスの予約など思いもつかなかつたら



写真6. 茂山千五郎師一門によるロビーでの狂言。英語の解説と共に演じられた。

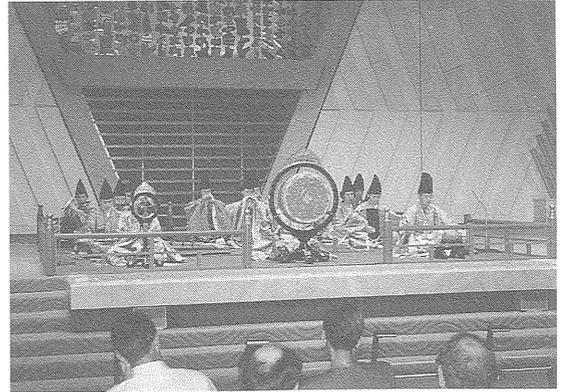


写真7. 春日大社・奈良大学南都雅楽会の皆様による雅楽。

しい。交換したての1万円札をふりかざす遠来のお客様。40人の乗客のうち、数人はねこばば。アルバイトの学生は涙と汗で、次の日に空港へ行くのをこわがる有様であった。荷物の未到着、ノービザの客、現金・航空券の紛失と小事件の連続であったが、いずれも無事に解決して、さすが日本とかすかな慰めもあった。

そ の 他

予約は少なかったのに、補助金をだした観光ツアーに地質家と同伴者が集中した。一方、補助金のない観光ツアーは、閑古鳥が鳴く状態であった。前者の場合には、途中で補助金をカットするわけもいかず、会場交通のシャトル・バスとともに、予算の約2倍に及ぶ大赤字の原因となった。後者の場合には、バスをタクシーにかえ、数少ない客の要求にこたえることにした。京都へ来てはじめて物価高を痛感し、スケジュールを具体化するのはやむをえないと同情したものの、地質家は気楽なものだと感心させられた。

ホテルの予約なしに、夕方おそく京都駅へつく団体さんも数例に及んだ。ただいま到着した、ホテル

の手配をたのむとの電話れんらくがあった。若い元気な高井正成さんがまず駅へ、次いで原田憲一さんと竹内圭史さんが追いかけた。パニック状態にちかい団体さんを上手にさばくだけの、ユーモアある英語を話せる彼らは、日本交通公社・京都の後藤さんが無理にたのんでくれた宴会ずみの大広間に、ザコ寝・朝食付3700円の条件で送り込むのに成功した。実現するにいたらなかったが、京都大学の学生寮に団体さんの一泊を依頼したこともあった。

ホテルへ支払った予約金約2万円で、会期中の宿泊が可能と勘違いした、かなりの慌て者もいた。帰国旅費の不足をうったえた地質家とともに、私たち個人のポケットマネーを一時的に用だてることにした。その後の返金の徴候もなく、借用書は机のひき出しにねむっている。

みなさん御苦労さまでした。しんどい学会でしたが、多少なりとも地質学の発展と国際交流につくせたことにいたしましょう。私たちの御無礼のかずかず、ひらに陳謝いたします。

NOGAMI Yasuo, NISHIMURA Susumu and OHNO Terufumi
(1993): Miscellanea at the site for the 29th IGC.
